

2024（令和6）年度 入学者選抜試験問題

一般選抜Ⅰ期

国語総合（近代以降）（60分）

注意事項

1. 監督者の指示があるまで問題を開かないでください。
2. 問題冊子は17ページあります。ページの落丁、乱丁および解答用紙の汚れなどに気づいた場合は、無言で手を高く挙げて監督者に知らせてください。
3. 監督者の指示にしたがって、解答用紙に氏名、フリガナ、受験番号をそれぞれ正しく記入・マークしてください。受験番号は、受験番号欄の上部に10桁の番号を算用数字で記入し、下部に番号をマークしてください。正しく記入・マークされていない場合、採点の対象となりません。
4. 解答は、次の（例）を参考にし、解答用紙の解答記入欄にマークしてください。なお、正しくマークされていない場合は、採点できません。

（例）解答番号1に対して、⑤と解答する場合

解答番号	解 答 記 入
1	① ② ③ ④ ⑤

5. 訂正箇所は、消しゴムできれいに消してください。
6. 解答欄には、関係のない符号や文字あるいはメモなどを記入しないでください。
7. 試験終了後、解答用紙を訂正することは一切できません。
8. 解答用紙を折ったり汚したりしないでください。
9. 問題冊子の余白部分は、適宜利用してもかまいません。
10. 声を出して問題を読んではいけません。
11. 不正行為について
 - ①不正行為に対しては厳正に対処します。
 - ②不正行為に見えるような行為が見受けられた場合は、監督者が直接注意します。
 - ③不正行為を行った場合は、全ての科目が失格となります。
12. 気分が悪くなった場合は、無言で手を挙げて監督者に知らせてください。
13. 試験終了後、問題冊子は持ち帰ってください。

国語

(解答番号は 1 ～ 39)

一 次の文章を読んで、後の問い（問 1 ～ 8）に答えよ。解答番号は 1 ～ 12。

言語と人間は互いに互いを育てあつてきた、と述べたのは（注1）C・S・Lewisである。

AI革命がいわれインターネット革命がいわれるいま、この言語と人間の付き合いは新しい段階、というより、A 本格的な段階に入っているように見える。状況がこれまでとはまったく違つてきているのである。

むしろ、言語の本質が変わつたわけではない。むしろ、これまでよりいつそう頭^{あたま}わになつて、いわば人は日々その本質、その途方もない力——とりわけ嘘^{うそ}をつく力、騙^{だま}す力、扇動する力——に直面しなければならなくなつてきたのである。人は自ら知らずに嘘をつき、たやすく騙されるが——すなわちイデオロギーを持ちパラダイムに（ア）侵されているが——、その事実^{じじつ}に四六時中、直面させられるようになってきたといつてもいい。言語の力はまさに恐るべきである。言葉は人を騙し扇動するが、同時に、人を励まし勇気づける。だが、それだけではない。

言葉は人を傷つけ、ときには殺しさえする。

インターネットは人間のひとりひとりを新聞社に変え、テレビ局に変えたとはよくいわれることだが、重要なのは、誰もが同じ資格で自由に発言できるようになったということではない。その結果、新聞やテレビがサブカルチャーすなわち下位文化に格下げされたということである。新聞やテレビの権威が（イ）失墜したわけではないが、大幅に縮小されたのである。それはいまや国家的メディア、国際的メディアではなくなりつつある。その結果、新聞やテレビがこれまで以上に主義主張を鮮明に出すようになり、たとえばあるものはいつそう右翼的になり、別のものはいつそう左翼的になってきた。簡単にいえば、熟慮することが少なくなつてきたのである。ということつまり、自らサブカルチャー化に a をかけ始めたということである。

失つてみてはじめて分かるが、権威の失墜は重大である。これまでいかに新聞やテレビの権威に頼つてきたかが分かるが、しかし、失われてゆく過程で、これまでの権威がいかに基盤^{もと}の脆いものであつたかも明らかになった。権威として登場してきたものの多くが、若く未熟な記者やディレクターによつて（b）恣意的に選ばれたにすぎなかつたことが（c）露呈してきたからである。インターネットの情報が飛躍的に増えて、容易に比較することができるようになつたのみならず、記事も番組もたやすく批判されるようになった結果である。

マス・コミュニケーションの時代が終わった、あるいは、B 新たなマス・コミュニケーションの時代に入ったのである。コミュニケーションが過剰に発達して、新聞やテレビのなかった時代に再び戻ったと思えば分かりやすい。だが、情報だけは溢れかえっている。人々は膨大な情報に接しているのだが、その情報の多くは選別も整理もされていない生な情報なのだ。いわば膨大な情報の海の渚で遊んでいるようなものだ。人類はいま、巨大な波がいつ押し寄せるかもしれない波打ち際で（エ）戯れているのである。

山崎正和の『社交する人間』も、大岡信の『うたげと孤心』も、このような時代の指針としてきわめて重要であると思う。大岡の道元論、芭蕉論は、『うたげと孤心』の先鞭となつたのみならず、山崎の社交論の例として核心を衝くものだと思う。社会が茫漠と広がる海として表象されるようになって、社会の実質である社交が重要性を増してきたといつてもいい。

山崎も大岡も、顔の見える世間、すなわち仲間やサークルを、人間の社会の基礎単位として重視している。いわゆるサロンだが、指摘するまでもなく、文学史においても芸術史においても、主体となり潮流を決定してきたのはサロンであり仲間なのだ。広い意味でのサロンが人に文章を書かせ、雑誌を発行し、作品を育んできたのである。

近代文学でいえば、（注2）鷗外も漱石も芥川もその結果である。（c）小林秀雄らの「文藝界」にせよ、戦後批評における（注3）「近代文学」にせよ、あるいは戦後詩における（注4）「荒地」にせよ、サロンである。数人、せいぜい数十人の集まりの——（注5）ロビン・ダンバーによれば上限は百五十人である——、その熱気が人を感動させ、数千人、数万人、そして長い目で見れば数百万人の読者を獲得し、日本語を読む人々のあいだに浸透していったのだ。文学史はいわばそういう島宇宙を結ぶひとつの物語である。

同じことは、（オ）漚って（注6）人麻呂にも貫之にも俊成にも芭蕉にもいえるだろう。清少納言にも紫式部にもいえる。要するに、他にも少なからず存在しただろう文学的営為である島宇宙の、なかでもとりわけ輝くものの点綴された姿が文学史という物語なのだ。網羅しているわけでも、精選されているわけでもない。いわば恣意的なものにすぎないのだが、鑑賞や解釈の堆積が、作品の奥行を深めてきたのである。水村美苗はその過程で現地語が国語に変容したと述べているのである。はじめは中国語が、後に西欧語が、普遍語として現地語を刺激し、国語に変容させてきたわけだが、その変容の場である島宇宙は、広い意味でのサロン文化にほかならなかった。

現代になって、文芸雑誌や芸術雑誌が刊行されるようになり、このサロン文化が変容したといふべきだろうか。（c）私はむしろそれらはその最終形態だつたのだと思う。変容するのは、おそらくいまや完璧に普及したと思われるインターネットの時空においてということになるだろうと思う。この世のすべてがデジタル映像で記録されるようになって——私はいまや十年前のニエース

を見ることも現在のパリやニューヨークの街角を見ることも同時にできるのである——から、歴史上のいつ地球上のどこで、という特異性、個別性が希薄になってきたのだ。

むろん、インターネットのもたらしつつある時空がこれからどうなるのか、いまなお判然としないのだから、私になど予測がつくはずもないが、いずれにせよそれはいま眼前で生成しつつあるのである。そのなかで、水村のいう現地語、国語、普通語がその意味をどのように変容させるのか、これもまたまったく予測がつかない。

(三浦雅士『孤独の発明 または言語の政治学』より。)

- (注) 1 C・S・パース——アメリカの哲学者(一八三九〜一九一四)。
- 2 鷗外も漱石も芥川も——鷗外は森鷗外、漱石は夏目漱石、芥川は芥川龍之介のこと。
- 3 「近代文学」——荒正人・平野謙・埴谷雄高らによつて一九四六年に創刊された文芸雑誌。
- 4 「荒地」——一九四七年九月から翌年六月まで同人誌として発行された詩誌。
- 5 ロビン・ダンバー——イギリスの人類学者・進化生物学者(一九四七〜)。
- 6 人麻呂にも貫之にも俊成にも——人麻呂は柿本人麻呂、貫之は紀貫之、俊成は藤原俊成のこと。

問 1 傍線部（ア）～（オ）の漢字の読みとして最も適当なものを、次の各群の①～④のうちから、それぞれ一つずつ選べ。解答番号は 1 ～ 5。

- | | | | | | |
|-----|---|--------|---------|--------|-------|
| （ア） | 1 | ① ぬら | ② みな | ③ ひた | ④ いや |
| （イ） | 2 | ① しつたい | ② しょうたい | ③ しつつい | ④ しつい |
| （ウ） | 3 | ① ろそう | ② るてい | ③ ろおう | ④ ろてい |
| （エ） | 4 | ① む | ② まぬが | ③ おぼ | ④ たわむ |
| （オ） | 5 | ① よみがえ | ② ひるがえ | ③ さかのぼ | ④ かえ |

問 2 空欄 a に入る語句として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。解答番号は 6。

- ① 歯止め ② 拍車 ③ 保険 ④ 発破

問 3 傍線部（b）「恣意的」の意味として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。解答番号は 7。

- ① 論理的に考えるさま ② 思いつきで行動するさま
③ 威力や勢力を示すさま ④ 自分で自分を慰めるさま

問 4 傍線部（c）「小林秀雄らの『文藝界』」とあるが、この「文藝界」は一九三三年創刊の文芸雑誌で、評論家の小林秀雄はその同人の一人である。小林秀雄の作品として最も適当なものを次の①～④のうちから一つ選べ。解答番号は 8。

- ① 「日本文化における時間と空間」 ② 「海上の道」
③ 「現代政治の思想と行動」 ④ 「本居宣長」
もとのおりのりなが

問 5 傍線部 A「本格的な段階に入っているように見える」とあるが、どういうことか。

その説明として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。解答番号は 9。

- ① AI革命やインターネット革命によって言語の本質に触れられるようになったため、言語を操るがゆえに人は知らず知らずのうちに嘘をつき、簡単に騙されるという事実から目を背けるわけにはいかなかったということ。
- ② もともと人は自ら知らずに嘘をつき、たやすく騙される存在であったが、AI革命やインターネット革命によって言語の本質に変化が生じたことで、その事実真正面から向き合わなくてはならなかったということ。
- ③ 人はもともと知らないうちに嘘をつき、騙されやすくもある存在であったが、インターネット革命などがいわれる時代になって膨大な情報が溢れかえるなかで、言語の本質や言語の持つ力を改めて認識しなければならなかったということ。
- ④ インターネット革命などが起こり、もともと人は自ら知らないままに嘘をつき、騙されやすくもある存在であったという事実が顕わなものとなってきたことで、誰もが言語の本質というものを考えなければならなかったということ。

問 6 傍線部 B「新たなマス・コミュニケーションの時代に入った」とあるが、どういうこ

とを指して筆者はこう述べているか。その説明として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。解答番号は 10。

- ① インターネットによって誰もがテレビや新聞を介さずとも正しい情報を入手できるようになったこと。
- ② インターネットがテレビや新聞といった従来のマスメディアにとってかわって新たな権威を手に入れたこと。
- ③ コミュニケーションが過剰に発達したことで、かつての権威であった新聞やテレビが不要になってしまったこと。
- ④ マスメディアによる一方的な情報伝達の特権性が失われ、インターネット上を行き交う大量の情報伝達が主流となったこと。

問 7 傍線部C「私はむしろそれらはその最終形態だったのだと思う。」と筆者が述べるのはなぜか。その説明として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。解答番号は 11。

- ① 現代になって文芸雑誌や芸術雑誌が刊行されるようになったのは、仲間を外にも求めたからであり、理解してくれる者に向けてのものであるという点が、仲間内での楽しみの共有に価値を置く閉じたサロン文化の姿に重なるから。
- ② 現代になって刊行されるようになった文芸雑誌や芸術雑誌は、かつてであればサロンを主宰したであろう人によって創刊されており、その人を中心に新たなものを生み出すというサロン文化のあり方が投影されているから。
- ③ 現代になって文芸雑誌や芸術雑誌が刊行されるようになったのは、時代的にサロンが成立しなくなったからであり、少数の仲間が共同して何かを生み出すというサロン文化の精神そのものは引き継がれているから。
- ④ 文芸雑誌や芸術雑誌は、小規模で固定的なサロンを解体し、一般大衆に開くものに見えるが、発信元が明確で読者・賛同者の広がりを目指す点で、存続が難しいサロン文化を理想として追求しているといえるから。

問 8 この文章の内容に合致するものとして最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。解答番号は

12

。

- ① 新聞やテレビの権威が失墜したことで、これまでいかに新聞やテレビの存在に頼ってきたかが顕わになると同時に、その権威がいかに基盤の脆いものであったかも明らかになり、多くのメディアが横並びとなった結果、メディアは熟慮することなく、生な情報を無選別に発信するようになってきている。
- ② インターネットの登場によって誰もが同じ資格で自由に発言できるようになった結果、新聞やテレビが下位文化に格下げされ、人々は選別も整理もされていない溢れんばかりの生な情報にさらされるという事態になっているが、そのような時代だからこそ、社会の実質である社交の重要性が増してきたともいえる。
- ③ 文学史は、ある作品を取り巻く熱気という特異点が長い年月のなかで残していった痕跡の集積といえるが、インターネットが普及した現代では、「歴史上のいつ」や「地球上のどこ」という制約や個別性にとらわれずに、作品に触れることができる。
- ④ インターネットによって情報が飛躍的に増えたことで、情報の真偽や価値を比較して選び取ることができるようになったが、一方でフェイクニュースや質の低い情報も溢れているため、たやすく騙されないために言語を扱う能力を養うことが求められる。

二 次の文章を読んで、後の問い（問 1 ～ 8）に答えよ。解答番号は 13 ～ 24。

思考も記憶も感情も、言葉という繊維で紡がれ、編まれる。言葉のなかで、人の思いはある象^{かたち}りを得る。そのとき、A「言葉はいつも特定の言語としてある」。そのことに人は人生のある段階ではじめて気がつく。じぶんがこれまで話してきたのとは違う言語があることに。そしてじぶんが話しているのはその一つ、「母語」と呼ばれる言語であることに。【Ⅰ】

では、「母語」でしか語れない「私たち」は、別の言語をこころの繊維とする人たちとは通じえないのだろうか。わかりあえないのだろうか。日常のちよつとしたふるまいであれば、言葉がなくても通じることは多い。a 揺れ動くこころのその髪^{ひた}にまで理解の d 触手を伸ばそうとすれば、翻訳という作業を間にはさまざるをえない。翻訳とは、異なる言語表現をじぶんの理解できる言葉に移し換えることである。【Ⅱ】

物の世界、人が創った制度についてなら、それなりの翻訳は可能だろう。が、人の思いの綾^{あや}、あるいは肌理^めとなると、母語ですらうまく掴^{つか}められないほどに微妙なところがあつて、ましてや異語によつて表現されたそれらは B 正確な翻訳が困難だ。

そのとき、そもそも何をもつて正しく移し換えていると言えるのかの根拠があやしくなる。翻訳の言葉はあくまで「私たち」の言葉だからである。「私たち」のなす翻訳が、ほんとうに他者たちの思いの正確な写しであるのかを判断する術^{すべ}をもっていないからだ。他者の思いの綾や肌理として想定されるものも、結局は「私たち」の言葉で想像可能なそれにすぎない。他なるものを理解するとは、それを「わがものとする」ということ、いつてみれば「横領」(appropriation)である。

「しる」という語が「知る」であるとともに「領る」でもあるように。【Ⅲ】

しかし、あらためて考えてみれば、「私たち」の母語ですら、なにか確定したものとはいえない。「かなし」という語の意味一つ取つても、歴史のなかで意味をどんどんずらしてきた。b このずれがそれとの関係ですれであるところのものをヒエナかたちで取り出すことはできない。言葉が写しているもの、そのものも言葉で表わすはかないからだ。それもまたずれの生成のなかにある。c、言語には「本来の意味」などというものはありえないのだろう。詩作や翻訳においてちよつと歪^{いびつ}な言葉の使い方をするなかでも、母語という繊維は包容してゆく。

母語は親しいものではあるが、母語だから正確であるとは言えない理由がここにある。母語が歪な用法を強いられることで翻訳が母語以上に何ごとかを言い当てる可能性もまた、あくまで翻訳の過程で生まれるのである。【Ⅳ】

C 斉藤道雄さんの『手話を生きる』(みすず書房)を読んだ。斉藤さんは、かつてTVディレクターとして手話の世界を取材するなかで、「ろう文化」の世界が異国にではなく「私たち」のすぐそばにあり、しかもそれが「私たち」にはきわめて見えにくい、ということにきわめて根の深い d ヨク

アツの構造をとともなうものでありつづけてきたことを知った。そしていまは手話によるろう教育の現場を(イ) 二つの立場にいる。

「日本手話」はろう者の自然言語であること。そして、聴者がろう者とコミュニケーションするための手段として考案された「日本語対応手話」はその本質において日本語であり、「日本手話」という自然言語とは決定的に異なることを、迂闊にもわたしはこれまでよく理解していなかった。そのような迂闊を 慮つてか、斉藤さんはこう書き足してくれている。日本手話を母語とするろう者が日本語対応手話の話者と話すときに、ろう者は、私たち日本語を母語とする者が「日本語が不確かな外国人と会話している」ときとおなじことを感じていると。

D 「ろう文化宣言」(市田泰弘)によれば、「ろう者とは、日本手話という、日本語とは異なる言語を話す、言語的少数者である」。手話は独自の複雑な言語構造をもち、その言語コミュニティは独自の文化をもつ。言語能力は幼児期における教育に決定的な影響を受けるが、そのろう教育が聴者のほうから構築されてきたこと、いわばその「植民地化」の歴史を、それによつてろう者のコミュニティがブーン(ウ) レツさせられざるをえなかった理由をも含めて、斉藤さんはこの本で仔細に報告する。それらを、それこそ内臓を抉るような重い論述がつないでゆく。そして「ろう文化」救出のための関係者の長い足どりを考察したうえで、それを一筋の確かな光へとつないでゆく。

それは、ろう者と非ろう者とが出会いなおす道であり、それぞれに本質的限界をもった手話と音声語とが持続的に接触しあうなかでそれぞれの可能性を(エ) コウシンしてゆく道だ。その道を遠望する斉藤さんの眼はしかし、とても慎重である。たとえば、手話が視覚情報で編まれているがゆえに音声語よりも豊かな描写力を備えているのに対し、音声語は単調で抽象的であるがゆえに逆に時空を越えた意味の広がりをもたらす。そのように対比してみると、「映像はイメージを広げるようできて、逆に私たちの想像力を(オ) ジバりつけているのかもしれない」というふうに。

これは、音声語を母語としそこから別の音声語を外国語として習得するのとはちがって、手話を母語としそこから第二言語を習得するときの「格段の困難」を知る人だからこそその言葉であろう。が、この困難な道こそ、私たちが先に述べた、翻訳が母語以上に何いとかを言い当てる可能性にもつながるものであろう。

(鷲田清一『生きながらえる術』より。)

問 1 傍線部(ア)～(オ)に相当する漢字を含むものを、次の各群の①～④のうちから、それぞれ一つずつ選べ。解答番号は 13 と 17。

(ア) ヨクアツ 13

- ① ドンヨクに知識を吸収する
- ② 血行を促進するためにヨクソウにつかる
- ③ 曾祖父はシベリアにヨクリユウされた
- ④ ヒヨクな大地が広がっている

(イ) ニナラ 14

- ① 負傷者をタンカで運ぶ
- ② 経営の計画がヘタンする
- ③ 日頃のタンレンのたまものだ
- ④ 市民団体がバスの増便をタンガンする

(ウ) ブンレツ 15

- ① レツアクな環境から抜け出す
- ② 頭部のレツシヨウを十二針縫った
- ③ カレツな競争に巻き込まれる
- ④ チンレツしてある商品を手にする

(エ) コウシン 16

- ① コウテンをついて出航する
- ② 国家的政策に仏教のコウリユウがあつた
- ③ 相手チームのエースをコウリヤクする
- ④ プロ野球選手が契約をコウカイする

(オ) シベリ 17

- ① トベク行為は禁止されている
- ② サベク派の歴史を調べる
- ③ 言論や行動のソクベクは良くない
- ④ 敵のベクゲキから逃れる

問 2 空欄 a へ c に入る語句の組合せとして最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。解答番号は 18。

- | | | | | | | |
|---|---|------|---|------|---|------|
| ① | a | つまり | b | そこで | c | しかし |
| ② | a | しかし | b | そして | c | だから |
| ③ | a | ところが | b | つまり | c | なぜなら |
| ④ | a | だから | b | そのうえ | c | そして |

問 3 傍線部 (d) 「触手を伸ばそう」とあるが、「触手を伸ばす」の本文中における意味として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。解答番号は 19。

- ① 欲しいものを得るために働きかけること。
- ② 興味をもって取り組むこと。
- ③ 新しいジャンルを開拓すること。
- ④ 計画を立てて臨むこと。

問 4 次の一文は本文からぬき出したものである。これを戻す位置として最も適当なものを、後の①～④のうちから一つ選べ。解答番号は 20。

この限界を人はついに越えられない。

- ① 【Ⅰ】 ② 【Ⅱ】 ③ 【Ⅲ】 ④ 【Ⅳ】

問 5 傍線部 A 「言葉はいつも特定の言語としてある」とあるが、どういうことか。その説明として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。解答番号は 21。

- ① 思考や記憶や感情のような感覚的なものに形を与えて、伝達可能なものにすると、常にその人にとって「母語」と呼ばれる言語を用いているということ。
- ② 思考も記憶も感情も、人の思いは言葉のなかで象りを得るが、そのときの言葉というものの本来の意味は、じぶんにはわからないものであるということ。
- ③ 思考や記憶や感情といった人の思いを言葉として表すとき、その言語はあくまでもその思いを知るその人のみに属するものであるということ。
- ④ 言葉という繊維を編んで、ある思いに象りを与えることを通して、じぶんがこれまで話してきたのとは違う言語があることに気がつくということ。

問 6 傍線部 B 「正確な翻訳が困難だ」とあるが、筆者がこう述べる理由の説明として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。解答番号は 22。

- ① 他者の思いは、想像でしか理解することができないように、全てを言語化できるわけではなく、まして曖昧な表現の多い日本語は他言語に置き換えにくいから。
- ② そもそも翻訳という作業において、何をもって正しく移し換えていると言えるのか、それを判断する根拠がはつきりしていないから。
- ③ 人の思いの機微は、母語をもってしても完璧に表現できるとは限らないうえに、異言語で表現する際は、意味のずれが生じる可能性があるから。
- ④ 私たちの母語ですら確定したものとは言いがたいことを考えると、異語によって表現された言葉の意味を正確にとらえることはできないから。

- 問 7 傍線部C「斉藤道雄さんの『手話を生きる』(みすず書房)」、傍線部D『『ろう文化宣言』(市田泰弘)」からの引用を通して説明されている「ろう文化」における手話の説明として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。解答番号は 23。
- ① 日本手話はろう者が意思疎通のために自^{おの}ずと作り上げた言語であり、聴者がろう者とコミュニケーションするための手段として考案された本質においては、日本語と言える日本語対応手話とは決定的に異なっている。
- ② 日本手話を母語とするろう者は、日本語とは異なる言語で話す言語的少数者であり、日本語対応手話の話者と話すときには、日本語を母語とする者が日本語をしゃべれない外国人と会話しているときと同じことを感じている。
- ③ 視覚情報で編まれている手話が音声語よりも豊かな描写力を備えているのに対し、音声語は単調で抽象的であるがゆえ時空を超えた意味の広がりをもっており、その差異のなかにそれぞれの可能性を広げる道がある。
- ④ 日本手話を母語としそこから第二言語として日本語対応手話を習得する場合においては、音声語を母語とする聴者が別の音声語を外国語として習得する場合と同様に、非常に大きな困難に直面する。

問 8 この文章の内容・構成についての説明として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。解答番号は 24。

- ① まず、母語と別の言語の翻訳には困難がつきまとうことを指摘し、さらに母語自体が抱えている問題点に触れている。そして、日本手話はろう者の自然言語であり、ろう者が日本語対应手話を習得するには格段の困難がともなうと述べ、最後にこれらに共通する困難さのなかに、翻訳が母語以上に何ごとかを言い当てる可能性があるともまとめている。
- ② まず、母語が異なる者同士の間で通じ合うためには翻訳という作業をはさむ必要があることを、ついで母語自身における意味の曖昧さを指摘している。そして、日本手話がろう者の自然言語であり、日本語対应手話との間にも同様に翻訳という作業をはさむ必要があると述べ、最後に翻訳という作業にはさまざまな可能性が秘められているとしている。
- ③ まず、母語と別の言語の間において正確な翻訳が難しいことを指摘し、さらには母語だからといって正確には解釈できない理由に触れている。そして、ろう者が日本手話という日本語とは異なる言語で話す言語的少数者である事情を紹介し、最後にこれらの内容を踏まえて、翻訳には母語以上に何ごとかを言い当てる可能性があると明言している。
- ④ まず、母語と別の言語間の翻訳には困難さがある半面、翻訳の過程で母語の理解を超えた気づきを得る可能性を示唆している。そして、日本手話を母語とするろう者による独自の「ろう文化」をめぐる取り組みが、日本語という音声語と手話との接触という翻訳に似た営みを通じてそれぞれの可能性を広げ、ろう者と非ろう者の相互理解につながるものだとしている。

三 次の問い（問 1 ～ 11）に答えよ。解答番号は ～ 。

問 1 次のア～ウの文の説明にあてはまる語句として最も適当なものを、後の①～④のうちから、それぞれ一つずつ選べ。解答番号は ～ 。

ア ある事柄の意味を、押し広げて説明すること。

- ① 超克 ② 敷衍^{ふえん} ③ 蔓延^{まへん} ④ 援用

イ 非難し、つまはじき^{はなはじ}にすること。

- ① 蔑視 ② 揶揄^{やゆ} ③ 指弾 ④ 反駁^{はんぱく}

ウ 主義・主張などを掲げること。

- ① 扇動 ② 喚起 ③ 啓蒙^{けいもう} ④ 標榜^{ひょうぼう}

問 2 次のア～ウの意味を表す語句として最も適当なものを、後の①～④のうちから、それぞれ一つずつ選べ。解答番号は ～ 。

ア 主導権。指導的立場。

- ① ステークホルダー ② へゲモニー
③ マジヨリティ ④ オーソリティ

イ 技術的特異点。

- ① エントロピー ② ボーダーレス ③ シンギュラリティ ④ アポリア

ウ 道德的危険。倫理崩壊。

- ① モラル・ハザード ② ティスコミュニケーション
③ ダブル・バインド ④ ドメスティック・バイオレンス

問 3 次の各文のうち、敬語の使い方として最も適当なものを、①～④のうちから一つ選べ。
解答番号は 。

- ① 「クーポン券を^ご利用いたしますと、10%引きで^ご購入いただけます。」
② 「クーポン券を^ご利用しますと、10%引きで^ご購入いただけます。」
③ 「クーポン券を^ご利用になりますと、10%引きで^ご購入いただけます。」
④ 「クーポン券を^ご利用されますと、10%引きで^ご購入いただけます。」

問 4 次の各文のうち、敬語の使い方が誤っているものを、①～④のうちから一つ選べ。

解答番号は 32。

- ① 「このうえないお心遣いをいただきありがとうございます。」
- ② 「あなたが申されることはもつともだと存じます。」
- ③ 「段差がございまして、足元には十分お気をつけください。」
- ④ 「先日、先生のお描きになった作品を拝見いたしました。」

問 5 次の各文の傍線部の「ない」のうち、他と品詞が異なるものを、①～④のうちから一つ選べ。解答番号は 33。

- ① 今も変わらない**な**い故郷の懐かしい風景。
- ② 観光の目玉になるものが一つも**な**い。
- ③ 予想より倍率は高くない**な**いみたいだ。
- ④ 私の故郷は自然以外何も**な**いところだ。

問 6 次の各文の傍線部の「な」のうち、他と種類が異なるものを、①～④のうちから一つ選べ。解答番号は 34。

- ① ここはとても静か**な**ので落ち着く。
- ② 真偽不明の変**な**うわさが広まる。
- ③ 努力家**な**のに怠け者のふりをする。
- ④ 優雅**な**振る舞いに思わず見とれる。

問 7 次の各文の傍線部の「ような」のうち、他と用法が異なるものを、①～④のうちから一つ選べ。解答番号は 35。

- ① 鋼の**よう**なメンタルの持ち主だ。
- ② ひまわりの**よう**な人目を引く花を植えたい。
- ③ 宝石をちりばめた**よう**な星空が目に入った。
- ④ 時代劇のセットの**よう**な古い町並みだ。

問 8 次の慣用句と意味の組合せが誤っているものを、①～④のうちから一つ選べ。解答番号は 36。

- ① 青菜に塩 ― 元気を失ってしよげること
- ② 柳に風 ― 逆らうことなく巧みにあしらうこと
- ③ はきだめに鶴 ― その場にうまくなじんでいないこと
- ④ 渡りに船 ― 都合よく望んだ条件が整うこと

問 9 次の四字熟語のうち、「主義・主張がはっきりしていること」という意味を表す語句として最も適当なものを、①～④のうちから一つ選べ。解答番号は 37。

- ① 虚心坦懷 きょしんたんかい ② 旗幟鮮明 きしせんめい ③ 理非曲直 ④ 一目瞭然

問 10 次の四字熟語のうち、「差別をすることなくすべての人を平等に愛すること」という意味を表す語句として最も適当なものを、①～④のうちから一つ選べ。解答番号は 38。

- ① 一視同仁 ② 不偏不党 ③ 敬天愛人 ④ 公平無私

問 11 次の故事成語のうち、「古い慣習にこだわるあまり融通がきかないこと」という意味を表す語句として最も適当なものを、①～④のうちから一つ選べ。解答番号は 39。

- ① 石に漱ぎ流れに枕す くわすず ② 虎穴に入らずんば虎子を得ず
- ③ 羹に懲りて膾を吹く あつもの ④ 株を守りて兎を待つ へりぞ

2024年度一般選抜Ⅰ期 国語 正解

国語

解答番号	正解	解答番号	正解
1	3	21	1
2	3	22	3
3	4	23	1
4	4	24	4
5	3	25	2
6	2	26	3
7	2	27	4
8	4	28	2
9	3	29	3
10	4	30	1
11	4	31	3
12	2	32	2
13	3	33	1
14	1	34	3
15	2	35	2
16	4	36	3
17	3	37	2
18	2	38	1
19	1	39	4
20	3		